

【講評】

大問数、解答数ともに昨年と同様であった。知識問題：思考問題＝7：3で、昨年と問題のタイプに変化はなかった。問題のレベルは基本：標準：発展＝6：2：2で、昨年と同じであった。Ⅲが考察問題であるところも昨年と同じであった。時間的には余裕があり、Ⅲの考察問題に十分な時間をかけることができたであろう。Ⅰ、Ⅱの知識問題では、正しいものをすべて選ぶ問題が多く、そこでの失点を最小限に抑えられるかがポイントである。

Ⅰ：すべての問題が知識問題。問3、問5、問7が標準的な問題で、そのほかは基本的な問題である。1つの大問の中に複数の分野から出題されている。

Ⅱ：問2だけが思考問題で、そのほかは知識問題である。すべて基本的な問題である。

Ⅲ：問1が知識問題で基本的な問題である。問2～問7は思考問題で発展的な問題である。ステロイドホルモンの受容体は細胞質に存在すると学習するが、リード文にもあるように細胞膜に存在するものもある。そのことを前提として思考し、卵成熟のしくみを解読する問題である。